

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071200830		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	和歌山県岩出市591番地		
自己評価作成日	平成27年4月10日	評価結果市町村受理日	平成27年7月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を基に誰もが利用したいホームを目指しています。グループホームならではの雰囲気大切に、職員全員で寄り添えるケアに努めています。また、ひとり一人の個性を大切にしてお自宅におられた時のように過ごしてもらい、日常生活の中で自分の出来ることを発揮して頂けるよう支援し、ご本人が安心して暮らせるよう、職員間で常に意見交換を行いケアに繋げています。1階にはデイサービスを併設し、合同で行事したり、日常でも行き来が自由にならなっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyosyoCd=3071200830-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年5月22日

当該ホームは開設より14年になりますが「誰もが利用したいと思えるホームを目指します」地域の中で生き生きと、共に笑顔で暮らす。。それが私たちの願いです」と謳った理念を今も信念として大切に支援しています。日々のケアは常に利用者の立場に置き換えて考え、日常生活の中でつづやいたことも見逃さず、一人ひとりの思いに寄り添いその人らしい暮らしを支援をしています。職員は利用者の食の楽しみを重視し、季節の新鮮な食材や菜園の野菜も利用し、食欲が出るような彩りや食材を選び、家庭的な食事の団欒となるよう気を配り、利用者の笑顔と穏やかな表情に繋がっています。また朝食はバイキング形式を取り入れる事もあり好きなものを選べたり、品数も多くバランスの良い食事を摂ることで体調管理ができ、利用者が楽しみを持ち生活できるよう取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくり、ミーティング時や業務の中で理念について振り返り、ご利用者にとって何が大切かを話し合い、理念を共有し実践に向けて取り組んでいる。	開設時に考えられたホーム独自の理念を基に1年の目標を立て、利用者の声に耳を傾け寄り添うケアを実践しています。理念は毎月のミーティングで唱和し職員は同じ方向性を持って常に立ち回り、誰もが利用したいと思えるホームを目指しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会長より地区の夏祭りや秋祭り、ゴミ拾い等の情報を得て行事に参加させて頂いている。中学生の職場体験の受け入れ、地域の方々が慰問に来て下さり地域と交流に努めている。	地域の夏祭りや秋祭りへは利用者と一緒に出かけ、ゴミ拾いは職員が参加しています。自治会長の協力を得て認知症ケアの介護教室を開催し、地域の方の多数の参加がありました。近所の方と挨拶を交わしたり、中学生の体験学習の受け入れや踊りのボランティアがデイサービスに訪れたときは参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	センター内で介護教室を開催し、介護技術・認知症についての勉強会を開催している。今年度も開催の予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区会長、民生委員、市役所、家族が参加され、事業所からの活動状況、入居者の状況、研修について報告を行い、質問や意見を受け地域との交流を図りサービスの向上に努めている。	会議は市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、区長、副区長、家族の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。利用者の状況報告、行事報告、研修報告、消防訓練等について話し合っています。今後は2ヶ月に1回発行されるのぞみ新聞に会議の情報を載せ参加者を増やして運営に活かしていくことを考えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所担当者も参加されホームの状況や入居者の状況を積極的に伝えている。認知症キャラバンメイトにも登録している。	夜に開催する運営推進会議には毎回市担当職員も参加しています。また議事録は利用者と一緒に市に出向き届けたり、わからないことがあれば直接相談に行きホームの現状を知ってもらうなど、市担当職員とは良好な協力体制を築いています。市からの研修案内が届いた時は順番に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加したり、グループホーム内で研修会を開催している。また日頃から身体拘束をしていないか業務の中で話し合い、身体拘束のしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての県や市の外部研修に順番に参加し伝達研修で情報の共有を図り、法人やホームでの内部研修でも学ぶ機会があります。日々のケアの中で身体拘束と思われる事例があれば職員に気づいてもらえるよう都度説明と話し合っています。待ってもらう場合は利用者の同意を得て目配り、気配り、心配りの対応を心がけています。エレベーターへ向かった時は付き添い、デイサービスの玄関から自由に行き来してもら	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、研修参加を含め、ミーティング時には研修内容をフィードバックし、職員間で虐待防止、不適切なケアの防止に努めている。		

グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修に参加している。また、必要な方には支援を行い、関係者と連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をかけて説明している。入居者やご家族等の不安、疑問等を訪ね説明を行い同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、ご家族と信頼関係を築き、意見や不満等言いやすい雰囲気づくりを心掛け、出された意見を職員間で話し合い反映させている。	面会に来た時や電話で状況報告する時、月1回の便りの中で家族の意見や要望を聞いています。職員は家族との信頼関係を築けるよう話しやすい雰囲気づくりに努めています。消防訓練や花見、遠足には家族から気を遣わず声をかけてほしいとの要望があり一緒に出かけています。利用者の意見は日常生活の中で発した言葉を心に留め、家族に伝えサービスに反映できるように取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時には個々の意見が出しやすいよう日頃から雰囲気づくりを心掛け、職員間で話し合いサービスの向上に繋がるよう取り組んでいる。	月1回のミーティングやケース会議で出されたケア上のアイデアや提案、企画担当職員から出された外出や外食の企画等は実践してもらい、職員の意見がサービスの向上に繋がるよう取り組んでいます。また、管理者は常に職員の表情や声からもストレスがないか気を配り相談しやすい環境を作り、その都度意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々にやりがいを持ち、力が発揮できる環境作りに努め、人事考課等職員個々に向上心をもって働ける職場作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に出来るだけ多くの職員が参加できるよう働きかけ、研修後にはフィードバックを行っている。また職員個々がチェックリストで自己評価を行い、自身のケア等見直しを行い職員個々の向上に繋がるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し交流を図り、サービスの向上に努めている。		

グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況の把握に努め、ご本人の思いや不安を聞く機会を持ち安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な思いや要望を聞く機会を持ち、見学など雰囲気を見て頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いや状況を把握し、必要とされている支援を見極め必要なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間を共有し共に過ごせることを大切にしている。洗濯たたみや食事づくりなど生活の中で一緒に行いコミュニケーションを図り、得意な事を発揮して頂き共に過ごす関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時や電話、行事などでご本人の様子や暮らしぶりを、体調の変化など細かく伝え、情報を共有し、ご家族と共に支え合う支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ自宅におられた時のように過ごせるよう慣れた病院に通院したり、ご自宅に足を運んだり馴染みの場所が途切れないよう、ご家族と共に支え合う支援に努めている。	利用者のつぶやきを見逃さず家族に伝えて職員と一緒に自宅へ行き近所に挨拶をして来たり、墓参りの希望も叶えられるよう計画しています。法事で家族と一緒に出かけ際には準備を支援する等、馴染みの場所や人との関係が途切れないように努めています。友人が面会に来られた時はお茶を出し居室でゆっくり過ごしてもらい、デイサービスでの交流で馴染みの方との再会があったり、また年賀状、暑中見舞、手紙のやり取りができるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の会話などから利用者同士がどう関わっているか、利用者同士の関係性について情報を共有し、利用者同士の関係が円滑になるよう努めている。		

グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方にも、尋ねに行く等関係を断ち切らず付き合いを大切にするよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはご家族に今までの生活状況や希望を聞き意向の把握に努めている。また、入居後は入居者の声や様子、表情や行動から希望や思いを把握するよう努めている。	入居時のアセスメントシートは家族にも書いてもらい、病院やホームで面談し、生活歴や趣味、生活習慣などを聞き、利用者や家族の思いや意向の把握に繋げています。入居後は日常生活の関わりの中で発した言葉や表情等からも思いの把握に努め、職員の意見を出し合いながら推測したり、困難な時は家族にも聞いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、入居時にはご家族に生活歴等記入して頂いたり、訪問時に情報を得るなど暮らし方や生活のリズムの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方等、細かく記録に残し職員間で共有し、その人の暮らし方や生活リズムを知り、日々の行動や発言から全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケース会議で課題点やケアについて意見を出しあい、ご本人とご家族の思い、要望を聞き介護計画を作成している。介護計画に沿った支援を職員全員で統一させている。	利用者や家族の思いをもとに計画作成担当者が担当職員の意見を聞き介護計画を作成しています。毎月ケース会議でモニタリングを行い、実施状況の確認と評価をして3か月～6か月で再アセスメントを行い見直しています。受診時に医師の意見を聞き介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別の生活記録に記入し、また、申し送りノートへの記録を行い、職員間で共有しケース会議で見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて柔軟な支援を行っている。		

グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職場体験受け入れや、地域のボランティアの方に来ていただく等、地域交流に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望されるかかりつけ医院となっており、受診はご家族が付き添い、ご家族が同行不可能な時や状況によっては職員が代行している。	入居時にこれまでのかかりつけ医や専門医について聞き、かかりつけ医を継続しており変更される場合は医療機関を紹介する支援をしています。医療機関への受診は家族が対応し、場合によっては職員が受診の支援をしています。ホームから情報提供し診察結果の情報は共有しています。緊急時は協力医の対応もあり24時間連絡が取れる医療体制を整えています。体調の変化で気になることがあればデイサービスの看護師に相談しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護職員と連携を取っており、入居者の状態変化に応じ相談しながら健康管理の支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院関係者に日頃の状況など家族と相談しながら情報提供している。また、入院中は職員が頻繁に見舞い、早期退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの対応についての方針は、入居時に説明しています。日常的に医療が必要になったときは、早い段階から主治医、ご家族とよく話し合い、状況に応じた対応ができるように取り組んでいます。	ホームの方針としてはホームで対応できる支援内容を踏まえ看取りの支援はしていない事を入居時に説明しています。重度化し食事が摂れにくくなったり、入浴面等でホームの生活が困難になってきた場合や医療行為が必要になってきた状況については、早い段階から医師や職員が利用者や家族に説明し、今後のあり方を話し合い施設が決まるまではホームで出来る限りの支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や講習会に参加し、急変に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団と一緒に避難訓練を実施し、消火器の使い方や避難経路のアドバイスを頂いている。	避難訓練は年3回行っており、1回は地域の消防団と一緒に通報、避難経路の確認、消火器の使用方法等のアドバイスをもらい、年2回は昼夜を想い自主訓練を行っています。自主訓練ではビデオ映像を見たり、通報の仕方の再確認をしています。訓練には利用者も一緒に行い家族の参加もあります。今後は地域の防災訓練にも参加していきたいと考えています。	

グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとり一人の思いに寄り添い、誇りやプライバシーを損ねないように配慮し、声掛けには注意を払い、さりげない声掛けを行っている。	年4回ホームでの認知症ケアの研修を行い尊厳の保持やプライバシーについて等のケアの在り方を学んでいます。トイレ誘導時は耳元で声かけし周りに分からない誘導方法をさりげなく行っています。不適切な言葉かけが見られた場合はその都度注意し、日々のケアは語尾や口調にも気をつけ親しき中にも礼儀をわきまえ心をこめて笑顔で対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の食べたい物を聞きメニューに取り入れた、入浴等本人の希望を聞き決定できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日により、ひとり一人の状態に合わせ、その人らしい生活を過ごせるようご本人の希望を尊重し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひとり一人の能力に合わせ、自己決定できる方には本人の好みでおしゃれできるように支援し、自己決定しにくい方には一緒に選んでいただく等支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人の能力に合わせ、調理、盛り付け等一緒に行っている。季節の食材を取り入れ、食事は職員も一緒にテーブルを囲み団らんの時間となっている。	献立は職員が冷蔵庫を見て利用者の希望を聞きながら決めます。食材は業者から定期的に仕入れ、足りないものは利用者と一緒に買いに行き、米を研いだり食事の支度の一連の作業は一緒に行っています。彩り豊かな食材や見た目も味も利用者の好みに合わせ食べることを楽しみを重視し提供し、職員は食事中的話題の工夫から笑顔と笑い声が絶えない食事の時間となっています。時には外食に出かけたり出前をしたり、デイサービスと合同でバーベキューを楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士に食事内容をチェックしてもらい指導を受けている。ひとり一人の食事量を記録し、状態に合わせた水分量、食事量の確保等の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝時にひとり一人の状態に合わせた見守りや介助を行っている。		

グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を記録し、個々の排泄リズムを把握して、誘導を行いトイレでの排泄を支援しています。	排泄チェック表でパターンを把握し、自立の方は見守り、支援の必要な方には利用者の表情やしぐさを見ながら早い目のトイレ誘導を心がけています。夜間はポータブルトイレを使用する方もおり、現状維持やパッドは一人ひとりに合ったものを使用し失敗をないよう支援しています。退院後、トイレ誘導することによりおむつから布の下着に変更した方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、食事で繊維の多い食材、果物、乳製品を摂取、運動を心掛け、落ち着いて排便できるよう環境づくりをしている。また、主治医に相談し便秘薬を処方してもらい調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やタイミングで入浴をしてもらえるよう支援している。	入浴は利用者全員に毎日声をかけ、日中の入りたい時に入りたい方が入浴できるよう支援しています。入浴を拒否される利用者については、一日中寄り添い穏やかな気分で過ごせる環境や言葉かけを工夫したり、家族にも相談をしながら入ってもらっています。ゆず風呂や入浴剤を入れたり、好みのシャンプーや化粧水等を用いることで入浴を楽しめる支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人を尊重し、その方のペースに合わせている。寝付けない方に対しては話を傾聴し安心して入眠して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に基づき、通院ノート、服薬表に内容を記入し、変更があれば申し送りを行い、職員間で情報を共有している。生活状況表に服薬を記入し、症状の変化に合わせ、ご家族、主治医に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の能力や得意なことを活かし食事作りや、洗濯物等日々の生活の中でできることをして頂き力が発揮できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ等の機会を持ち、花見や遠足、庭でのランチなど楽しめるよう支援している。また、ご家族との外出やご本人の希望によりご自宅に出かけける等支援している。	日常的に天気の良い日には近くのお地藏さんまで散歩したり、法人や行政に書類を届ける時は職員と一緒に出かけしています。気分転換を図れるようドライブで近隣の寺に行ったり、季節には遠足で紅葉を見に出かけたり、花見には家族も一緒に行っています。日々の会話の中で衣類等必要な物を聞いた時には買い物に行き、自宅に帰りたい利用者の思いを大切に外出できるよう支援しています。	

グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方に了解を得て事業所がお金を預かり管理しているが、能力に応じご自身でお金を所持されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等季節の便りとしてご家族に手紙を書いて頂き、希望に応じ自由に電話をかけて頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物や庭で咲いた花など季節感を感じて頂けるよう取り組んでいる。居心地よく過ごせるようソファ等配置に配慮している。	温度や湿度の管理と毎日窓を開け換気と掃除をして居心地の良い空間作りに努めています。広いフロアには利用者で作った季節の飾りつけや随所に生花を置き、季節を感じられるようにしています。廊下にはベンチや畳コーナーがあり、テーブルやソファの配置も利用者が居心地の良い居場所を確保できるよう工夫し、生活感のある憩いの空間作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に椅子やソファを置き、好みの場所で過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込んで頂いたり、使い慣れた毛布等使用され安心して過ごして頂ける居室づくりに取り組んでいる。	居室はベッドとクローゼット、洗面所、カーテンが備え付けになっています。家族の写真や遺影、趣味のものを持ち込み、使い慣れたタンスや机、椅子、寝具、テレビ等を自由に持ち込み、配置は家族と一緒に考え居心地の良い居室になっています。衣替え時にはその都度家から衣類を持ってくる方もおられ、洗面台の掃除や枕カバーの交換、色塗りをして過ごすことなどを継続できるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差をなくし、手すりを配置し安全に過ごして頂けるようにし、トイレ、浴室、居室が分かるよう表示させて頂き自立した生活が送れるよう工夫している。		